

中学生・高校生 自転車の安全な乗り方 指導者ガイド (危険予測パターン)

ねらい	中学生・高校生の生徒は、通学や部活動等での移動、休日の外出等で、自転車を利用する機会が増えます。「中学生/高校生・自転車(危険予測パターン)」の項目では、生徒に「自転車で道路を通行する時には、どんな危険や事故が起こり得るのか?」「それらの危険を回避して安全に通行するためにはどうすればよいのか?」を動画で理解させつつ自ら考えさせることで、危険を予測して回避する意識・能力を高め、自転車乗車中の事故防止を図ります。
場面	この指導者ガイドは、以下の場面を使用した学習に対応しています。 1. 信号のある交差点の通行
備考	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 場面ごとに、「危険予測」「事故再現」「正しい通行方法」の3本の動画が用意されています。 ▶ 動画を視聴した後、ワークシートを使用して意見を書かせることで、自ら考える学習ができます。

学習の進め方(展開例)

内容・手順	留意点
<p>【準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施方法について検討する <ul style="list-style-type: none"> ● 学校で実施：1台の端末で「交通安全オンライン教室」にアクセスし、映像をプロジェクター・モニターへ出力したものを視聴するか、生徒に配布した端末で個々にアクセスさせる ● 自宅で実施：生徒に「交通安全オンライン教室」のURLを案内しておく ※この展開例では学校での実施を想定 ▶ 実施する場面(テーマ)を選定する ▶ ワークシートに手書きで回答させたい場合は、あらかじめワークシートのPDFをダウンロードし、生徒数分を印刷しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Wi-Fiへの接続等、インターネット環境を確認しておく ▶ 個々にアクセスさせる場合は、当日スムーズに開始できるよう、事前にURLの共有・接続方法等を確認・検討しておく ▶ 場面は特定の一つに絞っても、複数の場면을連続して実施してもよい ▶ ワークシートを使用せず、意見を考えさせて発言させる方法でもよい
<p>【導入】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自転車で道路を通行する際はさまざまな危険があり、交通事故の被害者となる可能性だけでなく、他人に損害を与えて加害者となってしまう場合もあることを説明し、事故に遭わない・起こさないためにどうするか考える時間であることを理解させる。 2. 動画を使用して学習するが、受動的に観るだけではなく、考え(意見)を聞く時間もあることを説明する。 3. 必要に応じて、基本的な交通ルールや中学生・高校生が自転車乗用中に多い事故、学校近辺での事故・ヒヤリ事例について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 場面は特定の一つに絞っても、複数の場면을連続して実施してもよい ▶ 自転車は車の仲間(軽車両)であることも説明する ▶ 交通ルールや事故についての座学パートは、学外の専門者に依頼してもよい
<p>【学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これから観る交通場面について、概要を説明する 2. 自転車に乗っているつもりで、動画を観るよう伝える 3. 「危険予測」を視聴する 4. ワークシートの問1について考えさせる(この交差点を通る時にどのような危ないことが起こりそうでしょうか?) 5. 代表者を指名し、考えた意見を発表させる 6. 次に観るものは「先の動画のような場面で起こりうる事故の例」であることを説明する 7. 「事故再現」を視聴する 8. ワークシートの問2について考えさせる(安全に交差点を通るには、どうすれば良いのでしょうか?) 9. 代表者を指名し、考えた意見を発表させる 10. 最後に観るものは「先の動画で観たような危険に遭わないための正しい通行方法」であることを説明する 11. 「正しい通行方法」を視聴する 12. ワークシートの問3について考えさせる(これから自転車に乗る時は、どのようなことに気をつけようと思いますか?) 13. 代表者を指名し、考えた意見を発表させる 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「小さな街中の道路ですね」「交差点ですが信号はありますか？」等、具体的にどのような場所なのかを分かりやすく説明し、想像させる ▶ 1回の再生だけでは伝わりづらい場合、状況を説明しながらもう一度再生してもよい ▶ 代表者に発表させる場合は、時間があれば何名かに発言させ、共通する意見や、特徴的な意見が出た場合はそれに触れてもよい ▶ 「事故再現」はあくまで例示であり、危険予測学習において重要なのは予測した危険の正解・不正解(当たった・外れた)ではなく、さまざまな可能性について考えることが大切であることを理解させる ▶ 時間があれば「他にもどのような危険が考えられるか」について、考える時間と発表の時間を設けてもよい ▶ 問3は、建前や正しいことではなく、「本当に自分自身が納得して、気をつけようと思った、実践できること」を考えるよう伝える
<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 学習内容を振り返り、自転車に乗る際に実践するよう伝える 	

各場面の内容詳細

場面(テーマ)	動画で発生する危険	指導のポイント
1. 信号のある交差点の通行	(事故再現) 1. 交差点が青信号なので直進しようとする、後ろから左折してきたトラックに巻き込まれる	<ul style="list-style-type: none">➤ 交差点では、左右からの車等だけではなく、前後から右左折で曲がってくる車がいることに注意し、前後の安全を確認する(特に、後ろについては振り返って見る)➤ 信号交差点で青信号で直進する場合でも、危険が全くないわけではなく、自分に気づかず車が右左折してくる危険があり、道路ではいつどのような場所でも安全を確認しながら通行することが重要であることを理解する➤ 自動車(特に大型車)は、目視・ミラーによる安全確認でも見えない場所(死角)があることを理解しておき、自動車の運転者に自転車(自分)が気づいてもらえていない可能性があることを予測する



こちらから「交通安全オンライン教室」の動画ページにアクセスできます
(中学生)

<https://ts-online.jatras.or.jp/j-bicycle>



(高校生)

<https://ts-online.jatras.or.jp/h-bicycle>